

# 区民の力を引き出す力が役割



細川正博

豊島区議会議員。1978年豊島区南大塚生まれ。2001年法政大学法学部政治学科卒業後、公益法人に2010年まで勤務。2008年TOKYO自民党政経塾第3期生終了。2011年豊島区議会議員選挙にて初当選。龍馬プロジェクト全国会総務局長。

## 大学時代の怒りと親として感じた矛盾

— 政治家を志したきっかけを教えて下さい。

細川 大学の授業で、財政危機の状況にも拘わらず利益誘導の政治が行なわれている現状を知つて、怒りが湧いてきました。そういう政治を変えたいと思い、政治の道を志そうと考え、父親と、ゼミの先生と、国会議員の方3人に相談しました。

すると全員から「社会人経験を積んでからにしろ」と言わされたので、一旦就職することにしたのです。

その後、結婚して子供が生まれました。親であれば自分が我慢してでも子供に何とか食わしてやろうとするのが普通の感覚ですが、国がやっている事は全く逆で、子供達や孫の世代から借金して今の人達のために遣っています。こんな考え方は絶対に間違っている、この状況を変えなければいけないという思いの火が私の中で消えませんでした。

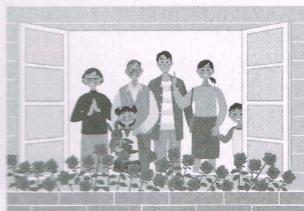
— 区議として取り組んでいる具体的な政策について教えて下さい。

細川 私は「教育」と「地域活性化」を2本の柱としています。これらは両方とも、力を引き出すことです。

教育は英語で「education」ですが、その語源はラテン語で、「能力を引き出す」という意味です。地域活性化も、地域の人達に当事者意識を植え付けて、やる気を引き出して行くことだと考えてています。その点で教育も地域活性化も根っこは一緒です。

私は現在、週に一回、商店街と町会が共同で持つている事務所を借りて、無料の寺子屋を開いています。そこでは「最低限の学力を付けること」「正しい判断基準を備えること」「人生に目標をもつこと」を3本の柱にしています。

寺子屋を開くに当たって、学校の



日本を創る

教室をお借りすることも可能だったかもしませんが、そうすると補習授業みたいになってしまってしまってますので場所を変えてやっています。

孟子の言葉に、「恒産なくして恒心なし」との言葉があります。要するに定期収入がないと、平常心が保てないと意味です。これは私の勝手な考えですが、子供達にとっての「恒産」とは、学校の授業についていく程度の最低限の学力ではないかなと思っています。

次に、正しい判断基準を備えるには、東洋思想を学ぶのが近道だと考えています。この世の中は自分と他人しかおらず、しかも他人が圧倒的多数な中で、たった一人の自分のためだけに行動しては、当然嫌われます。そういう内容は、四書五経の一番最初に読む、『大學』の第1節に書いてあるのです。江戸時代にはそれを6歳から読んでいました。

また、人生の目標を持つるように、私の個人的な繋がりで元南極越冬隊員や、元青年海外協力隊でケニアへ赴任していた人、元箱根駅伝の選手などをゲストティーチャーとして呼んでいました。

び、子供達に話をしてもらつています。彼等の話を聞くことは、子供達にとつて良い刺激になります。  
子供達はそれぞれ刺激の受け方が違います。こちら側としては、刺激を与える場を作ることはできても、効果は本人が感じることです。正しい判断基準を持った上で、それぞれに夢を持って欲しいと願っています。  
**政治に必要なのは「批判」ではなく物事の「進め方」**  
——地域活性化への取り組みについて教えて下さい。

**細川** 去年の12月、新しく商店街を地元の人達との協力の元に立ち上げました。去年、大塚駅に新しく駅ビルができることになり、どうにかして人を呼び込むことを考えようといふところから、若手数人と私が声をかけて、皆が何を思っているのか意見交換をしました。その時点では商店街設立を前提には考えていませんでした。

しかし、皆で話している内に、横に繋がる大事さを皆が分かつてきて、商店街設立の気運が高まりました。

商店街の目的や運営方針、設立手続き、区の補助金の受け方、運営可能な会費の水準などの提案を、全部こちらで用意して、皆で説明に行きました。

姿が多少見えて来ると、皆も「できるんだ」ということが分かってく るのです。これがクリアできれば、あとは皆の中にも当事者意識が芽生えて来て、勝手に色々なアイディア つて生まれて来るのです。

——最初の0を1にするためのサポートが重要ですね。

**細川** 0を1にするのは結構大変です。でもそれをやってしまえば、あとは慣性の法則のように動いて行きます。その力を引き出すことが私の役割だと思っています。

政治は批判だけをしていても何も変わりません。やはり現実をどうやつて前に進めるかが重要です。そのためには、行政との橋渡しや、いろんな人達の意見を集約する役割を担う人が必要です。私はその役割は地方議員という立場がある自分にこそ、できることがあります。

(取材・文 稲生永明)

# 明 日 を 創 る

